

10. クモ類

選定・評価方法の概要

クモ綱 Arachnida は、本土部レッドリスト 2010 で初めて取り上げられ、今回が 2 度目の選定・評価となる。同類は、クツコムシ目 Ricinulei、ヒヨケムシ目 Solifugae、ウデムシ目 Amblypygi、ダニ目 Acari、ザトウムシ目 Opiliones、カニムシ目 Pseudoscorpiones、サソリ目 Scorpiones、サソリモドキ目 Thelyphonida、コヨリムシ目 Palpigradi、ヤイトムシ目 Schizomida 及びクモ目 Araneae の 11 の現生のグループに分類され（順不同）、クツコムシ、ヒヨケムシ、ウデムシを除く 8 目を日本に産する。東京都本土部においては、コヨリムシ、ヤイトムシ、サソリ、サソリモドキの各目は生息していない。ダニ目の推定される種数は多いが、未記載種も多く、トキウモウダニのような特殊な事例を除き種の保全の対象として扱われることはほとんどない。また、ザトウムシ目及びカニムシ目に関しては東京都本土部における種の保存の観点での情報がひじょうに少ないため将来の課題とし、今回は前回（本土部レッドリスト 2010）と同じくクモ目のみを評価の対象とした。

クモは世界に 132 科、5 万種以上が知られ（World Spider Catalog, 2022）[最新の記録（2022 年 8 月 8 日現在）は、50,266 種]、日本からは 約 1,700 種が記録されている（小野, 2009；小野・緒方, 2018）。生態学的な特性も多様で、自然環境下および里山や都市の緑地などの人為環境下の生態系において、昆虫類の捕食者として、また鳥類や爬虫類、両生類、小型の哺乳類等の食餌動物として、重要な役割を果たしている。クモ類が多様で個体数も多い環境は、その餌となっている昆虫類が豊富であり、昆虫が多様な環境は植物相が豊かであることを表している。さらに、小型の脊椎動物にとっても餌が豊富な場所となり、クモの多様性が良い環境の指標になり得ることが示唆される。

評価にあたっては、平成 21 年（2009 年）以降今日までに報告されている文献を可能な限り探索し記録を検証した。特に、初芝ほか（2016）による八王子市（南多摩）における自然調査報告、区部の大型緑地である皇居（小野, 2014）、明治神宮の森（小野, 2013）および国立科学博物館附属自然教育園（小野ほか, 2019）の調査結果、また、多くの環境アセスメントの報告書の内容を検討し、レッドリストの評価対象とした。本稿の執筆にあたり、本土部レッドリスト 2020 確定後に出版された新海（2021）による東京都産のクモ類の目録も参考にした。

以上の情報を整理し、東京都が制定している評価基準や判定手順に準拠して検討を進めたが、クモ類に関しては定量的な調査は困難なことから、評価に際してはおもに定性的な条件を考慮した。とくに生態学的な特性（推測される個体数、食餌の多様性、環境依存度、移動能力など）、環境条件（生息場所の面積、環境の多様性、植生との関係、温度・湿度などの物理的な条件）、捕食圧（天敵との関係）及び競争圧（侵入種との競合）に注意を払った。

選定・評価結果の概要

評価対象種には、筆者による現地調査のほか、研究者の意見を広く聴取して約 40 種が挙げられ、検討の結果、本土部レッドリスト 2010 に掲載された 19 科 33 種に、ヤエンオニグモ、チュウガタコガネグモおよびムサンハイタカグモの 3 種を加えた 20 科 36 種が選定された。

新規選定の種を除くと、今回の評価結果は、本土部レッドリスト 2010 と比較して特筆すべきランクの変動は少ない。特に西多摩では、ニッパラマシラグモやトウキョウホラヒメグモのように洞窟や地下の間隙のような暗湿な環境に依存している種や、カネコトタテグモのように分



鍾乳洞（奥多摩町）

散を歩行に頼る移動能力の低い種のほか、純粋に森林、草原、溪流などの良好な環境を必要とする種の存在を脅かすほどの環境の改変は、過去 10 年間には為されていないと考えられる。

しかし、その他の地域では、わずか 10 年の間に、全体的に生息している種数の減少が見られ、またアシダカグモのような外来種の増加や、同種との因果関係は解明されていないがコアシダカグモ（本土部レッドリスト 2010 指定種）の減少など、都市化の進行がクモ相に影響を及ぼしていることが推測された。農耕地の宅地化、古い家屋の建て替えや空き地の効率利用による屋敷林や藪の消失、大規模緑地における樹木の極相化、景観を重視した下草の刈り取りや芝生の植栽などの過剰な環境管理、公園の地面のアスファルトやゴムチップ舗装、蚊などの害虫駆除のための薬剤散布などが、その要因として挙げられる。

東京都本土部からおよそ 600 種のクモが記録されているが、その 8 割近くに及ぶ 465 種が南多摩の八王子市に生息することが判明している。一方、区部の緑地では皇居や国立科学博物館附属自然教育園のような大規模緑地でも 200 種前後しか見られず、区部全体としては、57 年前の東京オリンピック前後の高度経済成長期にすでに多くの種が絶滅していた可能性が示唆される。もともと区部に生息していた種のおよそ 3 割にあたる 100 種程度がこれにあたると思われるが、全国あるいは本土部全体の視点での保護上重要な種には該当しないと考える。そうした種をすべてレッドリストに取り上げることは難しいが、今回、区部で取り上げられている種については今後も特段の配慮を持って観察していきたい。

区部や北多摩では、タテヤマテナガグモやクマダハナグモなどの比較的過酷な環境条件にも耐えうる広域分布種やアシダカグモやマダラフクログモなどの外来種の増加がみられ、今後はそうした新たな侵入者と保護上重要な種との競合についても見守る必要がある。

（小野 展嗣）

引用文献

初芝伸吾・谷川明男・新井浩司・甲野 涼, 2016. クモ類. 新八王子市史自然調査報告書, 八王子市動植物目録: 529-557.

小野展嗣（編著）, 2009. 日本産クモ類. xvi + 739 pp.

小野展嗣, 2013. 明治神宮の森と庭園のクモ類. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書: 384-414.

小野展嗣, 2014. 皇居のクモ類. 国立科学博物館専報, 50: 71-104.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類生態図鑑, 自然史と多様性. xiii + 715 pp.

小野展嗣・奥村賢一・水山栄子・安藤昭久, 2019. 自然教育園のクモ類. 自然教育園報告, 51: 123-142.

新海栄一, 2021. 東京都産クモ類. Kishidaia, 118: 141-211.

写真提供者

(株)ゼフィルス

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	VU	NT	NT	NT	NT	NT
2010	VU	NT	NT	NT	NT	NT



港区 2011 年

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	—	—	DD	DD	DD	—
2010	—	—	DD	DD	DD	—



あきる野市 1974 年

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	DD	—	—	DD	DD	—
2010	—	—	—	DD	DD	—



奥多摩町 1973 年

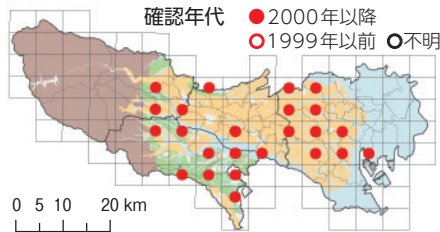
クモ目 トタテグモ科
キシノウエトタテグモ
<i>Latouchia typica</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 12 ～ 20 mm、♂ 10 ～ 15 mm。トタテグモ下目に属する原始的なクモで、8眼、3爪を有し、書肺は2対。♀♂とも背甲及び歩脚は褐色ないし黒褐色、腹部は褐色ないし紫褐色で、矢筈状の白斑のある個体がある。鋏角は大きい。地中に、長さ数 cm の管状の巣を作り、開口部に円形の扉をつける。生育に数年かかる。本州、四国、九州に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採、とくに自然林の広域伐採をとまなう開発、社寺林や里山の人工林の管理不足による荒廃。

■ **特記事項**：しばしば樹木の根元に造巣し、春季に初期幼虫が林床に分散する。造園などにおける樹木や土壌の移動に伴い、遠隔地（とくに都市の緑地）への人為的な拡散が見られるが、本来は良好な森林環境を要する種である。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 4, 8



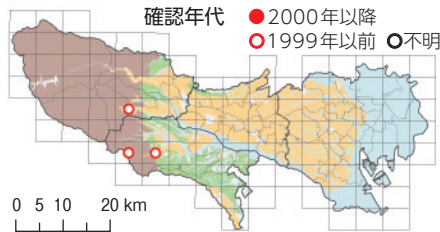
クモ目 エンマグモ科
コマツエンマグモ
<i>Segestria nipponica</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀♂ 5 ～ 7 mm。単性域のやや原始的なクモで、6眼、3爪を有し、1対の書肺と気管系を併有する。♀♂とも体及び歩脚は黒褐色ないし赤褐色で、腹部の背面に対になった斑紋がある。鋏角はやや大きく、第3歩脚が前方を向く。樹皮の割れ目や岩の隙間に、糸で管状の巣をつくる（開口部に扉はない）。成虫は年間を通して見られる。日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採、とくに樹齢の高い樹木（樹種を問わない）の伐採。そのほか里山の二次林や社寺林の管理不足による荒廃。

■ **特記事項**：飛行分散は確認されておらず、移動能力が低い。低山地に局所的に分布し、個体数も多くないが、里山の二次林や社寺林でも、生息が可能であるので、適正な森林環境の管理が必要とされる。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 4



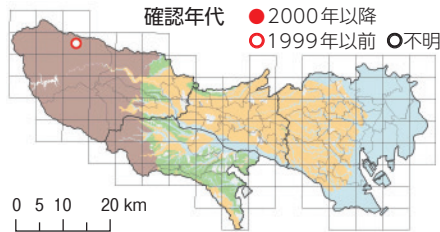
クモ目 ヤギヌマグモ科
ヤマトヤギヌマグモ
<i>Telema nipponica</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀♂ 0.8 ～ 1.2 mm。単性域のやや原始的なクモで、6眼、3爪を有する。書肺は欠き、2対の気管気門がある。篩板はなく、大きい間疣を有する。♀♂とも体は半透明で、背甲は淡褐色、腹部は黄褐色ないし灰色で、長毛を有する。洞窟内や山地の森林の地下間隙にシート状の網を張って生活する。日本固有種で、本州及び四国に分布するが、生息地は限られている。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採、とくに自然林の広域伐採、渓流などの水流の改変による乾燥化。洞窟の観光利用、農業利用による洞内環境の悪化。

■ **特記事項**：飛行分散は確認されておらず、移動能力が低い。湿度が適度に保たれた暗い森林環境や洞窟内に生息するので、伐採や開発による乾燥化によるダメージを受けやすい。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 4



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	NT	NT	NT	DD	NT	NT
2010	NT	NT	NT	DD	NT	NT



渋谷区 2011 年

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	VU	NT	VU	DD	NT	NT
2010	VU	NT	VU	NT	NT	NT



町田市 1989 年

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	VU	NT	NT	DD	NT	NT
2010	VU	NT	NT	DD	NT	NT



あきる野市
1978 年

小金井市
1971 年

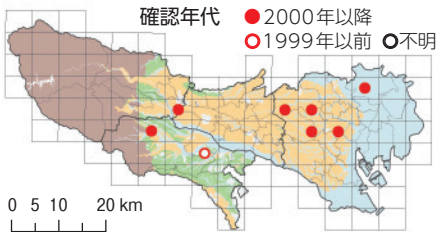
クモ目 ジグモ科
ワスレナグモ
<i>Calommata signata</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 13 ～ 18 mm、♂ 5 ～ 8 mm。トタテグモ下目に属する原始的なクモで、8眼、3爪を有し、書肺は2対。♀は全体に淡褐色ないし紫褐色、鋏角は強大で、第1歩脚はほかの歩脚に比べて小さい。♂は小型で、全体に黒褐色。地中に糸で裏打ちされたトンネル状の巣を作る。生育には数年を要し、幼虫は初夏に飛行分散する。本州、四国、九州（海外では中国、韓国）に局所的に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（草地開発、観光開発等、市街地開発）、過剰な管理利用（人の踏みつけ及び不適切な環境管理）。そのほか里山の衰退、都市及び近郊の緑地の公園化。

■ **特記事項**：本種は、本来は開けた草原に生息するが、社寺の敷地や畑地、都市の公園の芝生などでも見られることがある。市街地では、景観の重視により、草地を保存すること自体が困難になってきている。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 2, 4



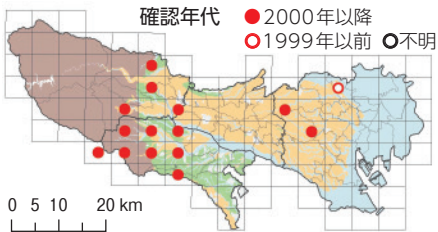
クモ目 カネコタテグモ科
カネコタテグモ
<i>Antrodiaetus roretzii</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 12 ～ 15 mm、♂ 10 ～ 13 mm。トタテグモ下目に属する原始的なクモで、8眼、3爪を有し、書肺は2対。♀の背甲及び歩脚は暗褐色、腹部は淡紫褐色あるいはベージュ。♂はやや暗色。鋏角は大きく前方に突出する。平地から低山地の樹林に生息し、地中に、糸で裏打ちされた管状の巣を作り、開口部に両開きの戸をつける。日本固有種で、本州（青森県～兵庫県）に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採、とくに自然林の広域伐採による乾燥化。そのほか里山の衰退にともなう雑木林の荒廃。

■ **特記事項**：本種は、良好な森林環境を必要とし、市街地の緑地での生存は困難である。空中飛行を行わないので分散能力が低く、とくに森林を伐採して行われる開発には脆弱である。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 4



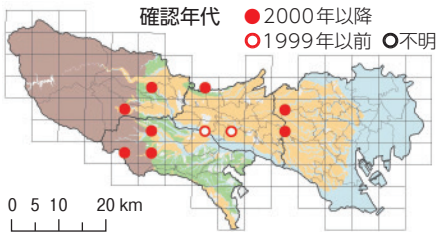
クモ目 トタテグモ科
キノボリトタテグモ
<i>Conothele fragaria</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 10 ～ 12 mm、♂ 8 ～ 10 mm。トタテグモ下目に属する原始的なクモで、8眼、3爪を有し、書肺は2対。♀♂とも背甲及び歩脚は黒色、腹部は黒褐色あるいは紫褐色。鋏角は大きい。樹幹（樹種、樹齢を選ばない）の樹皮の割れ目や苔むした岩の上などに、長さ数 cm の袋状の巣を作り、開口部に円形の扉をつける。生育に数年かかる。日本固有種で、北海道を除く全国に分布するが稀産。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採、とくに樹齢の高い老木の伐採、植林の繰り返しによる良好な森林環境の衰退、広域伐採による乾燥化。

■ **特記事項**：飛行分散を行わず移動能力は低いので、森林伐採がともなう開発には脆弱である。造園における樹木の移動による分布の攪乱の可能性があり、島嶼における生息は、人為的な要因も考えられる。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 4



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	NT	DD	NT	DD	NT
2010	NT	DD	DD	DD	NT



八王子市 1980 年

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	NT	DD	NT	DD	NT
2010					



八王子市 1979 年

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	DD	DD	DD	DD
2010	DD	DD	DD	DD	DD



あきる野市 2020 年

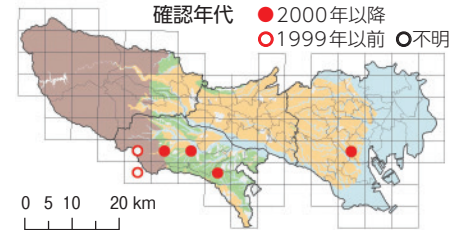
クモ目 コガネグモ科
キジロオヒキグモ <i>Arachnura logio</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 25 ～ 30 mm、♂ 1.5 ～ 1.8 mm。8眼、3爪を有し、1 対の書肺と気管系で呼吸する。♀の腹部は突起を伴った特異な形状をしている。♂はひじょうに小さく、腹部は卵形である。体色も♀（黄褐色または灰白色）と♂（黒色）で異なる。樹間に円網を張る。本州、四国、九州、南西諸島（海外では台湾、中国、韓国）に広く分布するが、生息は局所的である。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採。自然林、二次林（とくに針葉樹林を好むと言われている）の広域伐採による安定した森林環境の破壊、乾燥化。

■ **特記事項**：広範囲に分布するが、生息地は局所性を示し、しかも発見される個体数が少ない。大型の稀産種であることから、餌昆虫の多様性が必要であると考えられ、生息地の環境保全に注意を払いたい。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 4, 6



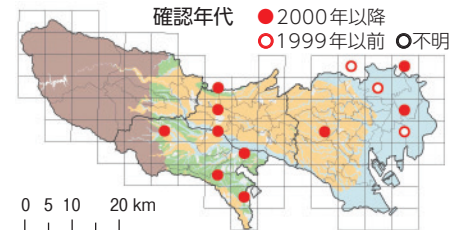
クモ目 コガネグモ科
ヤエンオニグモ <i>Araneus macacus</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 17 ～ 20 mm、♂ 9 ～ 11 mm。8眼、3爪を有し、書肺と気管系を併有する。普通種のオニグモ *Araneus ventricosus* に似るが、やや小さく、体色は明るい褐色で、腹部背面の葉状斑の幅が広い。丈の高い草原や藪、林縁の草木の比較的低い位置に円網を張る。北海道、本州、四国、九州（海外ではロシア極東地域）に広く分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（草地開発、観光開発等、市街地開発）、不適切な環境管理。とくに幹線道路や山道に沿った林縁に繁茂する低木や草本あるいは藪に対する過度の草刈りや除草剤の散布。

■ **特記事項**：各地で個体群の衰退が見られ、宅地化が進む八王子市野猿峠（基準産地）でもまったく見られなくなった。餌昆虫の多様性と豊富さが必要であるので、里山の環境保全にも注意を払う必要がある。

執筆者 小野展嗣
協力者 新海栄一
文献一覧 1, 4, 9



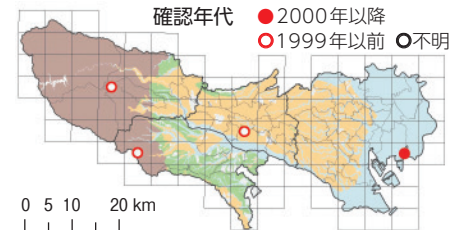
クモ目 コガネグモ科
コケオニグモ <i>Araneus seminiger</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 15 ～ 22 mm、♂ 10 ～ 14 mm。8眼、3爪を有し、書肺と気管系を併有する。ウメノキゴケなどの地衣類を思わせる色彩と斑紋をもつ。平地から山地の森林に生息し、里山でも見られることがある。樹間に円網を張る。北海道、本州、四国、九州、南西諸島（海外では中国、韓国）に広く分布するが、生息地における個体数は多くなく、発見されることが稀である。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採。とくに原生林、二次林、里山の雑木林などを問わず、樹幹にコケ類などが生育するような湿潤で安定した林の樹木の伐採。

■ **特記事項**：生息地における個体群が小さいので、環境の変化の影響を受けやすい。大型種であるため、餌になる昆虫の多様性と豊富さが維持する必要がある。里山環境の保全も必要である。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 4, 7, 10



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	—	—	NT	NT	NT
2010	—	—	NT	NT	NT



あきる野市 1974 年

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	DD	NT	DD	NT
2010	VU	DD	DD	DD	DD



2012 年

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	—	—	—	VU	VU
2010	—	—	—	VU	VU



奥多摩町

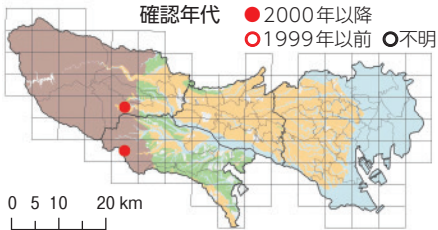
クモ目 ユウレイグモ科
アケボノユウレイグモ <i>Belisana akebona</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀♂ 2 ～ 3 mm。単性域のやや原始的なクモで、6眼、3爪を有し、呼吸器は1 対ずつの書肺と気管系である。歩脚が極めて細長い。♀♂とも背甲及び歩脚は黄色、腹部は淡い橙黄色で、数対の暗色斑を有する。洞窟内や山地の溪流に沿った湿った場所の岩の間などに不規則網を張る。日本固有種で、本州及び九州に分布するが、生息地は限られている。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採、洞窟の消失や環境悪化、ダム建設。とくに自然林の伐採や溪流などの水系の改変を伴う開発。

■ **特記事項**：洞窟や山間の溪流の周辺など、森林内の湿度が適度に保たれた暗い場所に生息するので、洞窟環境の改変や伐採、開発による環境の激変に敏感に反応する。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 4



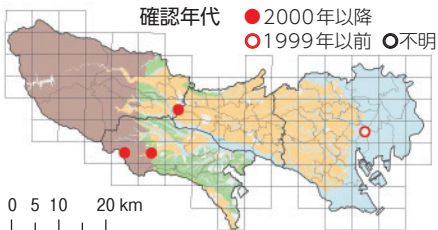
クモ目 マシラグモ科
ヤマトマシラグモ <i>Falcileptoneta japonica</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀♂ 1.6 ～ 1.7 mm。単性域のやや原始的なクモで、6眼、3爪を有し、1 対ずつの書肺と気管系で呼吸する。体は柔らかく、歩脚が極めて細長い。♀♂とも体は全体が半透明の淡い黄色ないし灰色で、斑紋はない。林の中の落葉層や倒木、石の下などの地下の隙間にシート状の網を張る。日本固有種で、本州（関東地方）に局所的に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採。とくに自然林の広域にわたる伐採。そのほか管理不足による里山の荒廃、平地の森林環境の縮小、消失。

■ **特記事項**：元来の生息域が狭められた結果、局所的な分布を示していると考えられる。飛行分散は行わず、移動能力が低いので、生息が確認されている場所では、良好な森林環境を保持する必要がある。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 4



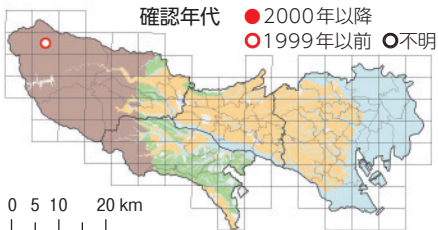
クモ目 マシラグモ科
ニッパラマシラグモ <i>Masirana nippara</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀♂ 2.0 ～ 2.5 mm。単性域のやや原始的なクモで、6眼、3爪を有し、1 対の書肺と気管系で呼吸する。体は柔らかく、歩脚が極めて細長い。♀♂とも体は全体が半透明の淡黄白色。洞窟性の種で、鍾乳洞内の岩の隙間などに、シート状の網を張る。日本固有種で、本州（東京都、山梨県、静岡県）に局所的に分布する。

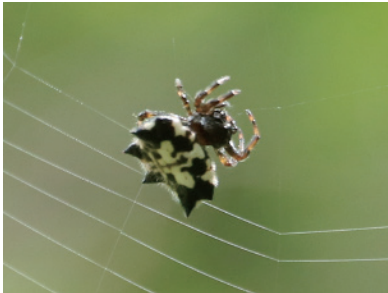
■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採、洞窟の消失や環境悪化、ダム建設。特殊な環境に生息し、移動能力が極めて低いので、開発行為が（とくに観光開発）直接影響を及ぼす。

■ **特記事項**：生息地が局限されているので、環境保全にとくに注意が必要である。洞窟外の地下隙間での生息が確認されていないので、洞窟の観光利用に際しては特段の注意が必要である。

執筆者 小野展嗣
協力者 新海栄一
文献一覧 1, 4, 9



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	DD	DD	DD	DD	DD	
2010	—	—	DD	DD	DD	



日の出町 2016 年

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	—	DD	NT	DD	DD	
2010	—	—	NT	DD	DD	



国分寺市 1995 年

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	—	—	DD	DD	DD	
2010	—	—	DD	DD	DD	



八王子市 1988 年

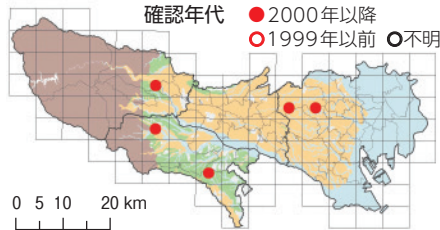
種名	分類
トゲグモ <i>Gasteracantha kuhlii</i>	クモ目 コガネグモ科

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 5 ～ 8 mm、♂ 3 ～ 4 mm。8眼、3爪を有し、書肺と気管系を併有する。腹部は幅広く、背面は黒色の地に白色斑を伴い、周囲に3対の先端が尖った突起があるので簡単に見分けられる。低山地や里山の森林の樹間に体長の割には大きい円網を張る。本州、四国、九州、南西諸島（海外ではインド、中国、東南アジア）に広く分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採。そのほか里山環境の衰退や、耕作地における農業散布などによる餌昆虫の多様性及び個体数の減少。

■ **特記事項**：日本では稀産種で、分布が局限され、個体数も多くない。湖沼の周囲や溪流沿いなどの風がよく通る場所の樹間に造網することが多いので、自然林、人工林の樹種を問わず、良好な森林環境の保全が必要である。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4



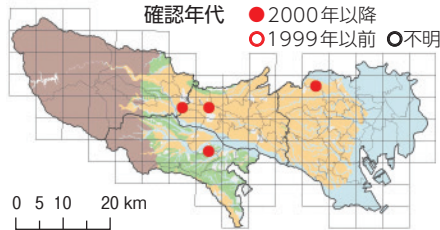
種名	分類
ゴマジロオニグモ <i>Mangora herbeoides</i>	クモ目 コガネグモ科

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 5 ～ 6 mm、♂ 4 ～ 5 mm。8眼、3爪を有し、書肺と気管系を併有する。背甲は黄褐色で、正中部に黒条がある。腹部は卵形、背面は黄色で、後部に数対の黒色点斑がある。平地～低山地の樹林や里山に生息し、林縁の低木や草間に円網を張る。成虫は夏から初秋にかけて見られる。北海道、本州、四国、九州（海外では中国、韓国）に広く分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採。そのほか里山環境の衰退、藪などにおける景観重視の草刈り、農業や除草剤散布による餌昆虫の減少。

■ **特記事項**：広域分布を示すが、わが国では、いずれの生息地でも個体数が少なく、森林伐採をとまなう開発による環境の改変や、里山環境の荒廃により、個体群の維持がやや困難な状況があると考えられる。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4



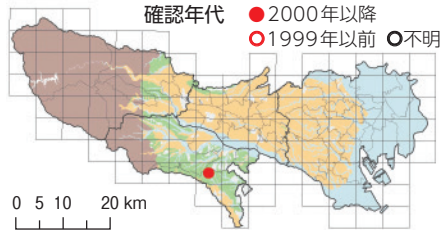
種名	分類
マメイタイセキグモ <i>Ordgarius hobsoni</i>	クモ目 コガネグモ科

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 6 ～ 9 mm、♂ 1.6 ～ 2.0 mm。8眼、3爪。書肺と気管系を併有する。全体に褐色で、背甲に多数の刺状突起があり、腹部は多数の瘤状突起に覆われる（和名の「豆板」の由来）。平地～低山地の林縁、草原、里山の果樹園などに生息し、粘球のついた糸を回転させてガを捕らえるという特殊な捕虫を行う。本州、四国、九州、南西諸島（海外では中国、インド）に広く分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（草地開発、観光開発等、市街地開発）、不適切な環境管理。そのほか里山環境の衰退、自然の藪における不用意な草刈り、農業や除草剤散布による鱗翅類の減少。

■ **特記事項**：広域分布を示すが、いずれの生息地でも個体数が少ない稀産種。東京都における記録も多くない。餌となる蛾類の幼虫が食べる食草の保全も必要であり、多岐にわたる自然環境の改変に注意を要する。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	DD	DD	DD	DD	DD	
2010	DD	DD	DD	DD	DD	



八王子市 2005 年

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	VU	VU	NT	NT	NT	
2010	VU	NT	NT	NT	NT	



千代田区 2012 年

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	—	DD	DD	DD	DD	
2010	—	—	—	—	—	



日の出町 1994 年

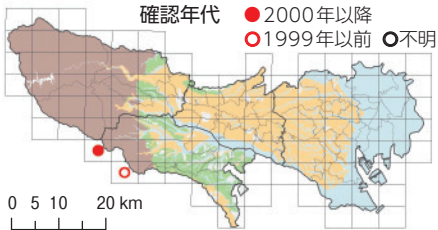
種名	分類
ニシキオニグモ <i>Araneus variegatus</i>	クモ目 コガネグモ科

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 11 ～ 15 mm、♂ 9 ～ 10 mm。8眼、3爪を有し、書肺と気管系を併有する。腹部は暗緑色と山吹色で複雑な模様を形成し、緑色の強い個体と黄色の強い個体がある。山地の森林に生息するが、里山の人工林でも見られる。高い位置の樹間に円網を張る。北海道、本州、四国、九州、（海外では中国、韓国、ロシア極東地域）に広く分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採。自然林だけでなく、植林地、里山の雑木林や社寺林においても、伐採や開発がダメージを与える可能性がある。

■ **特記事項**：社寺や山小屋の屋根と樹木の間に造網することもあるが、本来は樹高のある一定の広さのある林に生息する種であるので、森林伐採の際には注意を要する。里山環境の保全も重要な要素である。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4



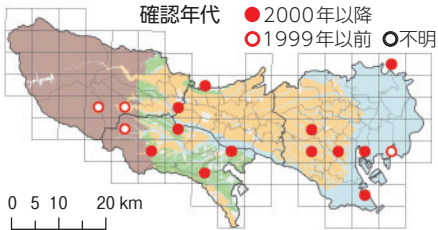
種名	分類
コガネグモ <i>Argiope amoena</i>	クモ目 コガネグモ科

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 20 ～ 30 mm、♂ 5 ～ 7 mm。8眼、3爪を有し、書肺と気管系を併有する。腹部背面に黄色と黒色の太い横縞模様があり、ひじょうに目立つ種である。平地から山地の自然環境や里山に生息し、草原や林縁の下草、河川や池沼、田畑の周囲にあるいわゆる藪の空間の低い位置に大きい円網を張る。本州、四国、九州、南西諸島（海外では台湾、中国、韓国）に広く分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（草地開発、観光開発等、市街地開発）、圃場整備、不適切な環境管理。とくに過剰な農業散布による餌昆虫の減少、道路脇での除草剤使用、都市緑地での景観重視による草刈り、野焼き。

■ **特記事項**：生息場所が一般にも目につきやすい場所であり、よく知られた種であるので、里山や都市の緑地における保全活動の指標種として役立つ。とくに産卵期及び幼虫の分散期（夏～秋季）には注意を払いたい。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4, 7



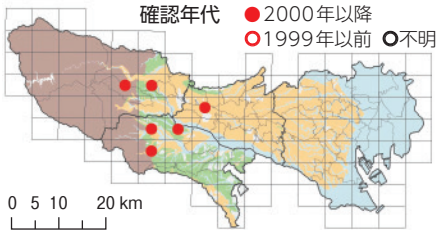
種名	分類
チュウガタコガネグモ <i>Argiope boesenbergi</i>	クモ目 コガネグモ科

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 15 ～ 18 mm、♂ 5 ～ 6 mm。8眼、3爪を有し、書肺と気管系を併有する。コガネグモに似るが、やや小型で、腹部背面の黄色い横縞は分断されて中央に円形の黄斑があるように見える。山地や里山に生息し、林縁の低木や草間に円網を張る。本州、四国、九州、南西諸島（海外では台湾、中国、韓国）に広く分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（草地開発、観光開発等、市街地開発）、森林伐採。とくに自然公園のほか、一般道路や林道脇の空地における過剰な草刈りや除草剤の使用、野焼き。

■ **特記事項**：コガネグモより個体数が少なく目立たない。大型種であるので、餌昆虫の多様性と個体数に左右される。本来の生息場所は山地や里山の林の周囲や草原であり、森林伐採や開発の際には注意を要する。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	－	－	－	VU	VU
2010	●	●	●	VU	VU



奥多摩町

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	－	－	－	DD	DD
2010	●	●	●	DD	DD



檜原村 1982 年

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	－	－	－	NT	NT
2010	●	●	●	NT	NT



奥多摩町 1974 年

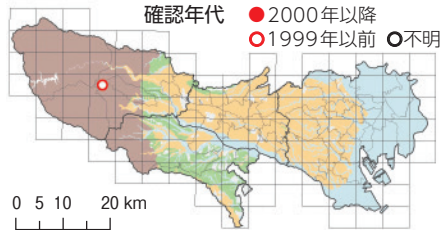
クモ目 ホラヒメグモ科
トウキョウホラヒメグモ <i>Nesticus shinkaii</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀♂ 4～5 mm。8眼、3爪。書肺と気管系を併有する。背甲及び歩脚は淡黄褐色、腹部は球形で、ベージュ色の地に数対の黒褐色の点斑がある。鍾乳洞やそのほかの洞窟内に生息し、岩と岩の間や壁面のくぼみなどに不規則網を張る。日本固有種で、本州（関東地方）に分布する。今のところ、生息地は東京都内のみから知られているが、将来、隣接する他県でも採集される可能性がある。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採。とくに採石や大規模開発による山間の水流の変化、観光利用などによる洞窟内の温度、湿度、照度などの物理的な環境の変化。

■ **特記事項**：これまで、東京都内の特定の鍾乳洞などの洞穴数力所から記録されている。採集による人為的な影響も出ているため生息地は未記載とするが、生息する洞窟などの観光利用や、周辺の森林や渓流域の観光開発は避けたい。

執筆者	小野展嗣
協力者	新海栄一
文献一覧	1, 4, 9



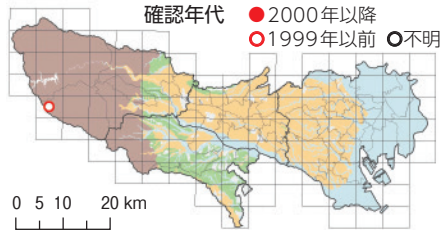
クモ目 サラグモ科
カナコキグモ <i>Tapinopa guttata</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀♂ 3.5～4.0 mm。8眼、3爪を有し、書肺と気管系を併有する。背甲は黒褐色、腹部は卵形で、淡褐色の地に数対の不明瞭な黒褐色の点斑がある。北海道などの寒冷地では平地でも見られるが、関東地方では山地のみに生息する。樹林や草地の地表に糸を幕状に密に張りめぐらせた袋状の網を張る。北海道、本州（海外では中国及びロシア極東地域）に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採。そのほか山地の森林伐採をとまなう大規模な観光開発、管理不足による里山の荒廃。

■ **特記事項**：寒地性の種で、分布域は広いが、生息地には局所性がある。関東地方の標高700～800 m以下の地域ではほとんど見られない。本州の山地では稀であるが、里山にも生息するので、自然森林だけでなく里山の自然環境の保全も必要である。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4, 9



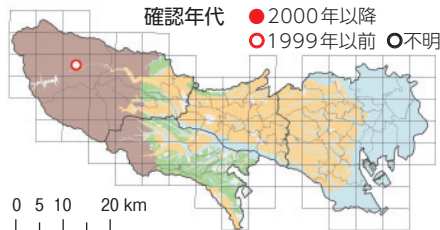
クモ目 サラグモ科
ニシキサラグモ <i>Taraneucnus nishikii</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀♂ 2.5～2.7 mm。8眼、3爪を有し、書肺と気管系を併有する。背甲及び歩脚は褐色ないし黄褐色。腹部は卵形で、灰色またはベージュの地に黒褐色の斑紋がある。平地～山地の森林内の暗所や洞窟内に生息するが、生息地の記録は多くない。洞窟内の岩の割れ目や地下の間隙にシート網を張る。日本固有種で、北海道、本州に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採。とくに林床の岩盤に地下の間隙を有するような森林における樹木の伐採や開発による乾燥化、洞窟環境の改変。

■ **特記事項**：森林の地下間隙などの暗い場所や各種の洞窟の中にすむクモで、分布域は広いが、生息地は限られており、生息地における個体数は多くない。東京都では記録が極めて少ない。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4, 9



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	DD	NT	NT	NT
2010	－	－	NT	NT	NT



あきる野市 1986 年

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	－	－	DD	DD	DD
2010	－	－	DD	DD	DD



八王子市 1985 年

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	－	－	－	NT	NT
2010	●	●	●	NT	NT



奥多摩町 1972 年

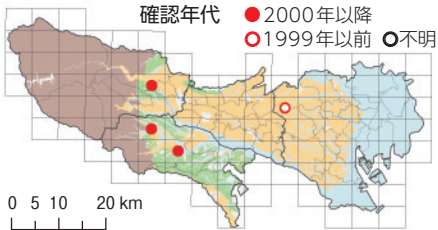
クモ目 コガネグモ科
ムツトゲイセキグモ <i>Ordgarius sexspinosus</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 7～11 mm、♂ 1.9～2.1 mm。8眼、3爪。書肺と気管系を併有する。背甲は褐色で、6本の刺状突起がある。腹部はベージュないし灰褐色で、不均質の小突起が多数ある。平地～低山地の林縁、里山の桑畑や果樹園などに生息する。夜行性で、捕虫方法はマメイタイセキグモと同様である。本州、四国、九州、南西諸島（海外では中国、インド、東南アジア）に広く分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（草地開発、観光開発等、市街地開発）、不適切な環境管理。とくに里山環境の衰退、景観重視の草刈り、過度の農業や除草剤散布による餌昆虫（鱗翅類）の減少。

■ **特記事項**：マメイタイセキグモ同様、個体数が少ない稀産種。成虫の餌昆虫が限定されるので、鱗翅類の幼虫が食べる食草の伐採や農業散布の間接的な影響を考慮する必要がある。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4



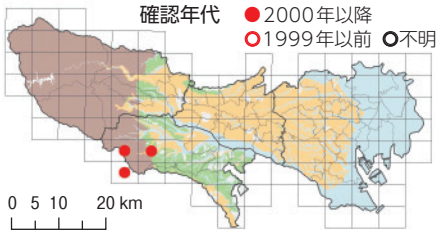
クモ目 コガネグモ科
ツシマトリノフンダマシ <i>Paraplectana tsushimensis</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 7～10 mm、♂ 2～3 mm。8眼、3爪。書肺と気管系を併有する。背甲及び歩脚は明るい赤褐色、腹部はオレンジ色の地に6対の黒斑がある。平地～低山地の草原や河川敷、林の中の開けた場所や林縁に生息する。夜行性で、草間に同心円状の円網を張る。本州、四国、九州、南西諸島（海外では台湾、中国）に広く分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（草地開発、観光開発等、市街地開発）、不適切な環境管理。そのほか里山環境の衰退、過度の草刈り、農業や除草剤散布による餌昆虫の減少。

■ **特記事項**：分布域は広いが、生息地は限られている。また、稀産種で、生息地における個体数も多くない。全国的に良好な自然草原が失われる傾向があり、本種の生存も草原環境の衰退とともに危ぶまれている。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4



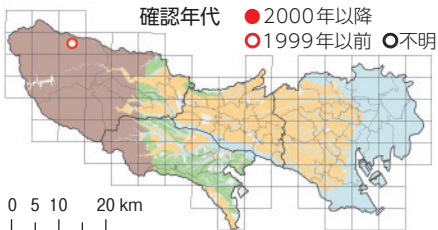
クモ目 アシナガグモ科
サンロウドヨウグモ <i>Meta japonica</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 9～15 mm、♂ 8～11 mm。8眼、3爪。書肺と気管系を併有する。背甲は褐色で、正中部と両側は黒色、腹部は卵形で黒褐色の地に淡褐色の斑紋がある。山地の樹林内の暗がり、渓流域、鍾乳洞やそのほかの各種の洞窟の内外及び古いトンネルに生息し、岩の間や草間に円網を張る。日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、ダム建設、森林伐採、洞窟の消失や環境悪化。そのほか森林の不適切な管理による乾燥化、採石などによる渓流環境の変化、洞窟の観光利用。

■ **特記事項**：分布域は広いが、生息地は局所的で、生息地における個体数も多くない。鍾乳洞の観光利用や農業利用のほか、山間の渓流域における釣り堀やキャンプ場などの設置に際しては細心の注意を払いたい。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	－	－	DD	DD	DD
2010	－	－	－	DD	DD



檜原村 2009 年

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	DD	DD	DD	DD
2010	EX	DD	EX	DD	DD



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	DD	NT	NT	NT
2010	DD	DD	NT	NT	NT



府中市 1988 年

クモ目
サシアシグモ科

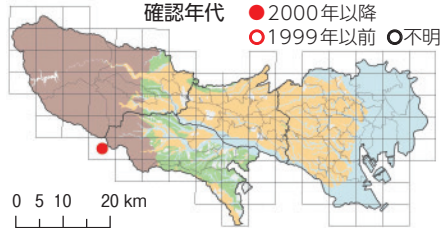
シノビグモ
Shinobius orientalis

■ **種の特性と生息状況**：体長♀♂ 5～8 mm。8眼、3爪を有し、1対の書肺と気管系を併有する。全体に褐色ないし黒褐色で、背甲及び腹部に暗色の斑紋がある。外観はコモリグモ類に似る。狩猟性で、山地の渓流域の岩の上や樹木の根元のコケ植物の中、湿潤な樹林の地表の下草の間などで見られる。日本固有種で、北海道、本州、四国に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採、とくに山地の自然林の大規模な伐採、乾燥化、渓流そのほかの水域での環境改变、治水事業。

■ **特記事項**：分布域は広いが、生息地には局所性があり、発見される個体数も少ない。湿潤な森林環境を必要とするので、とくに渓流域でのキャンプ場などの観光施設の開発に際しては注意が必要である。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 4, 9



クモ目
コモリグモ科

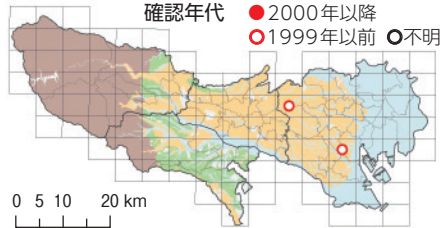
スズキコモリグモ
Lycosa suzukii

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 15～20 mm、♂ 10～15 mm。8眼、3爪を有し、1対の書肺と気管系を併有する。全体に灰褐色で、背甲には1対の幅広い黒褐色の帯があり、その両側に細い白色の縦斑がある。腹部背面の心臓斑は黒褐色で目立つ。狩猟性で、平地～山地の林縁の草間や河川敷の草原の地表に生活する。北海道、本州、九州（海外では、中国、韓国、ロシア極東地域）に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（湿地開発、草地開発、観光開発等、市街地開発）、森林伐採、不適切な環境管理。自然林の大規模な伐採にともなう乾燥化、河川の環境改变、治水事業、都市緑地の公園化。

■ **特記事項**：分布域は広いが、日本における生息地は極めて限定されており、生息地において発見される個体数も少ない。河川流域の草原環境の球技場や花壇、耕作地としての利用を制限する必要がある。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 4, 9



クモ目
カニグモ科

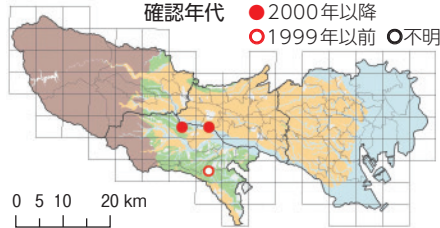
アシナガカニグモ
Heriaeus mellootteei

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 6～8 mm、♂ 4～5 mm。8眼、2爪を有し、1対の書肺と気管系を併有する。背甲及び歩脚は淡緑色、腹部は緑白色で多数の白い長毛を密生する。平地～低山地の林縁の草間や、やや乾燥した草原、ススキ原、藪などの草本上に生活する。狩猟性で、網を張らず、草の葉の上で、獲物の昆虫を待ち伏せる。本州、四国、九州（海外では、中国、韓国）に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（草地開発、観光開発等、市街地開発）、不適切な環境管理。とくにいわゆる藪の衰退、河川敷の公園化や過度な環境利用。

■ **特記事項**：分布域は広いが、日本における生息地には局所性があり、生息地において発見される個体数が減少しているので、都市近郊では、草原の公園化、とくに河川敷の球技場や花壇、耕作地としての利用を制限する必要がある。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 4



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	VU	NT	NT	DD
2010	VU	NT	NT	NT	NT



八王子市 1978 年

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	－	－	－	VU	VU
2010	・	・	・	VU	VU



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	VU	NT	DD	NT
2010	VU	NT	NT	DD	NT



2011 年

クモ目
ハウシグモ科

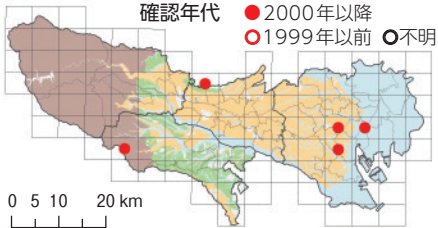
ドウシグモ
Doosia japonica

■ **種の特性と生息状況**：体長♀♂ 3～4 mm。8眼、3爪を有し、1対の書肺と気管系を併有する。体は全体的に黒色で、光沢があり、腹部背面にははっきりとした白斑がある。狩猟性で、平地～山地の自然林、人工林の比較的樹齢の高い樹木の樹幹、樹皮下に生活する。アリ専食で、しばしばア리를咥えているところが観察される。日本固有種で、北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採。とくに樹齢の高い樹木の伐採、都市の緑地や公園における、大木の伐採及び代替の低木の植栽。

■ **特記事項**：都市における良好な緑地環境の指標となり得る。多種のアリを捕食するが、都市部の緑地では、特定のアリの種との関係性が重要である可能性がある。なお *Doosia* 属を *Asceua* 属のシノニムとする意見もあるが誤りである（小野・緒方、2018）。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 2, 3, 4, 5, 12



クモ目
ナミハグモ科

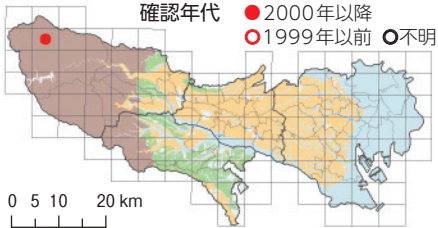
ムサシスミタナグモ
Cryphoea shinkaii

■ **種の特性と生息状況**：体長♀♂ 2.7～3.2 mm。8眼、3爪を有し、1対の書肺と気管系を併有する。背甲は黒褐色で両側は白色、腹部は灰色または紫褐色で背面に不明瞭な白斑がある。山地の自然がよく保たれた湿潤な樹林に生息し、岩や倒木の上に生えるコケ植物の群落などに管状の住居を作る。日本固有種で、本州（関東地方）に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採。とくに山地における自然林の大規模な伐採、乾燥化、渓流などの水流の改变、別荘地開発など。

■ **特記事項**：分布域が極めて狭く、生息地は良好な森林環境に限られている。生態学的データに乏しいが、森林伐採や市街地化が、本種の生存に与える影響は大きいと考えられる。所属の科は、タナグモ科とされることもある。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 4, 13



クモ目
アシダカグモ科

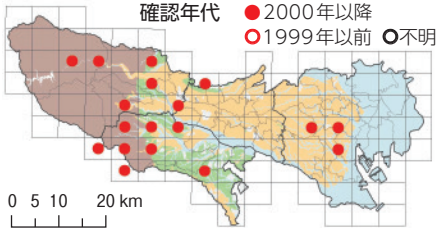
コアシダカグモ
Sinopoda forcipata

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 18～25 mm、♂ 15～20 mm。8眼、2爪を有し、1対の書肺と気管系を併有する。全体に褐色ないし黒褐色で、背甲及び腹部に黒色及び淡色の斑紋がある。野外の森林内においては、外来種のアシダカグモとの区別は容易ではない。平地～低山地の樹林に生息し、狩猟性で、昼間は暗所に潜み、夜間獲物を待ち伏せる。本州、四国、九州（海外では中国）に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採、とくに自然林、人工林の大規模な伐採、乾燥化、里山の樹林における過度の環境改变。外来種（アシダカグモ）との競合。

■ **特記事項**：都市近郊の樹林では、一定の広さと高木の密度、湿度の保持が必要である。かつては市街地のみで見られた外来種のアシダカグモが森林環境へも進出しており、競合により本種の生態的地位を奪う可能性がある。

執筆者 小野展嗣
文献一覧 1, 4



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	－	－	DD	DD	DD
2010	－	－	－	DD	DD



日野市 1976 年

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	－	－	DD	DD	DD
2010					



東京都外 2021 年

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	DD	DD	DD	DD
2010	－	－	VU	－	DD



杉並区 2012 年

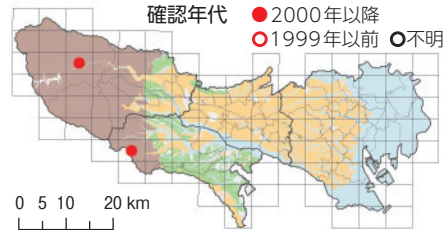
クモ目 イツツグモ科
ナガイツツグモ <i>Anyphaena ayshides</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀♂ 6～9 mm、♂はやや小型。8眼、2爪を有し、1対の書肺と気管系を併有する。背甲及び歩脚は淡褐色ないし黄褐色、腹部はベージュで明瞭な斑紋はない。狩猟性で、網を張らないが、糸で袋状の住居を作る。平地～山地の樹林の樹幹や枝葉の上、下草の葉上に生息する。日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採。とくに自然林の広域伐採による乾燥化、林縁の下草刈り、広葉樹林の環境改変や開発。

■ **特記事項**：同属の普通種であるイツツグモは針葉樹林に多いが、本種には樹種に対する特異性はない。亜熱帯域を除き全国に分布するが、生息地において発見される個体数は少ない。生存には良好な森林環境を要する。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4



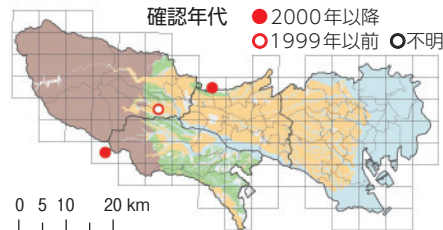
クモ目 ワシグモ科
ムサシハイトカグモ <i>Haplodrassus hatsushibai</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀♂ 6～9 mm、♂はやや小型。8眼、2爪を有し、1対の書肺と気管系を併有する。背甲及び歩脚は淡褐色ないし黄褐色、腹部はベージュで明瞭な斑紋はない。狩猟性で、網を張らないが、糸で袋状の住居を作る。平地～山地の樹林の樹幹や枝葉の上、下草の葉上に生息する。日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採。とくに自然林の広域伐採による乾燥化、林縁の下草刈り、広葉樹林の環境改変や開発。

■ **特記事項**：同属の普通種であるイツツグモは針葉樹林に多いが、本種には樹種に対する特異性はない。亜熱帯域を除き全国に分布するが、生息地において発見される個体数は少ない。生存には良好な森林環境を要する。

執筆者	小野展嗣
協力者	鈴木佑弥
文献一覧	1, 4, 11



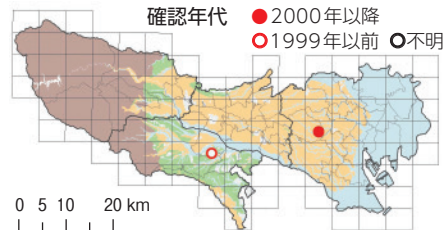
クモ目 アワセグモ科
アワセグモ <i>Selenops bursarius</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀♂ 8～12 mm。8眼、2爪を有し、1対の書肺と気管系を併有する。体は扁平で、樹皮下の狭い隙間に身を隠すことができる。背甲、歩脚、腹部ともに、紫褐色及びベージュのまだら模様を呈する。平地～山地の自然林や里山の雑木林、社寺林に生息し、狩猟性で、夜間に樹幹に出て昆虫を捕食する。本州、四国、九州（海外では、韓国、台湾、中国）に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採、とくに自然林の広域伐採による乾燥化。そのほか社寺林の過剰な管理、里山の衰退。

■ **特記事項**：分布域は広汎だが、生息地には局所性があり、生息地において発見される個体数は少ない。樹齢のある高い樹木を必要とし、自然林、植林地の場合は、正しい伐採方法を用いれば、一定の広さを完全に伐採しても新たに植えた樹木に数十年かけて周囲からクモが戻ってくるが、里山や都市近郊の生息地においては高木の伐採、低木の代替植栽をなるべく避けたい。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	DD	DD	DD	
2010	DD	DD	DD	DD	



青梅市 2003 年

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	NT	DD	NT	DD	NT
2010	NT	DD	DD	DD	DD



渋谷区 2012 年

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	DD	NT	DD	NT
2010	DD	DD	DD	DD	DD



八王子市 2001 年

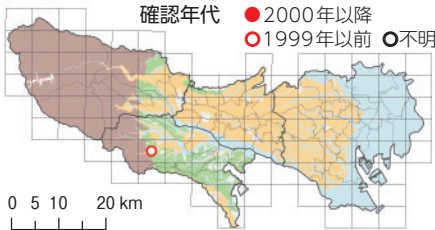
クモ目 カニグモ科
カトウツケオグモ <i>Phrynarachne katoi</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 8～13 mm、♂ 2～3 mm。8眼、2爪を有し、1対の書肺と気管系を併有する。背甲は黒褐色で前縁は白色、第1～2歩脚の基部に近い部分は白色、腹部は暗褐色で多数の疣状突起を有する。葉上に静止する♀は、鳥類の糞に擬態するとされている。狩猟性で、平地～低山地の林縁の低木や草の上で見られる。本州、四国、九州、南西諸島（海外では韓国）に広く分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（草地開発、観光開発等、市街地開発）、不適切な環境管理。とくに林縁の過度の草刈り、いわゆる藪の衰退、自然草原の公園化。

■ **特記事項**：分布域は広いが、日本における生息地には局所性があり、生息地において発見される個体数もきわめて少ない稀産種。里山や都市近郊では、林縁の下草や自然草原の過剰な草刈りを制限する必要がある。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4



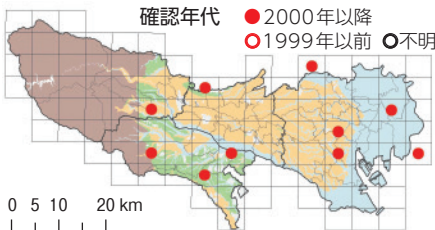
クモ目 カニグモ科
ヨコフカニグモ <i>Xysticus transversomaculatus</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 5～8 mm、♂ 3～4 mm。8眼、2爪を有し、1対の書肺と気管系を併有する。背甲は淡褐色で、両側に黒褐色の縦条がある。腹部は紫褐色あるいは灰褐色の地に白色の細い線状斑や暗色斑がある。類似した種が10数種あり、同定には注意を要する。狩猟性で、平地の自然草原の草間や河川敷の地表などで見られる。日本固有種で、北海道、本州、九州に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（草地開発、観光開発等、市街地開発）、不適切な環境管理。とくに河川敷の草原の球技場などへの利用、自然草原の環境改変や公園化。

■ **特記事項**：分布域は広いが、生息地には局所性があり、生息地において発見される個体数も少ない。都市の緑地の芝生などで発見されることがあるが、本来は丈の短い草本による自然草原や湿地に生息する種である。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4



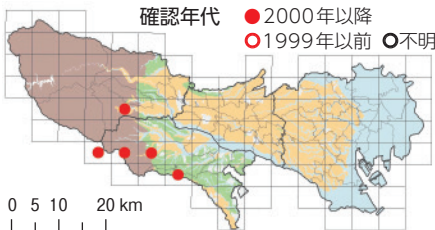
クモ目 カニグモ科
オビボソカニグモ <i>Xysticus trizonatus</i>

■ **種の特性と生息状況**：体長♀ 5～8 mm、♂ 4～5 mm。8眼、2爪を有し、1対の書肺と気管系を併有する。背甲は黒褐色で両側は赤褐色、頭部及び正中部は黄褐色で明るい。腹部は紫褐色で、不明瞭な白色の線状斑や暗色斑がある。類似した種が10数種あり、図鑑や原著論文に掲載されている図や他種の標本と細部を比較しないと見分けるのは難しい。狩猟性で、平地～山地の樹林の樹幹や草本の葉上で見つかる。日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発（観光開発等、市街地開発）、森林伐採。とくに自然林の伐採による乾燥化、里山の衰退による雑木林の荒廃、林縁の下草刈り。

■ **特記事項**：分布域は広いが、生息地には局所性があり、生息地において発見される個体数も少ない稀産種。自然林のほか社寺林や植林地にも生息可能だが、下草の繁茂する良好な環境を維持する必要がある。

執筆者	小野展嗣
文献一覧	1, 4



文献一覧

1. 小野展嗣 (2009) 日本産クモ類. 東海大学出版会 : 738pp.
2. 小野展嗣 (2013) 明治神宮の森と庭園のクモ類. 第二次明治神宮境内総合調査報告書 : 384-415.
3. 小野展嗣 (2014) 皇居のクモ類. 国立科学博物館専報, 50 : 71-104.
4. 小野展嗣・緒方清人 (2018) 日本産クモ類生態図鑑. 東海大学出版部 : 714pp.
5. 小野展嗣・奥村賢一・水山栄子・安藤昭久 (2019) 自然教育園のクモ類. 自然教育園報告, 51 : 123-142.
6. 小野展嗣・新海栄一 (2001) 自然教育園のクモ. 自然教育園報告, 33 : 173-200.
7. 萱嶋泉 (1966) 三多摩地方の蜘蛛の研究 (東京都). 国立音楽大学刊 : 79pp + 6pls.
8. 笹岡文雄 (2007) 東京 23 区におけるキシノウエトタゲモの生息地点. Kishidaia, 91 : 34-38.
9. 新海栄一 (2017) 日本のクモ 増補改訂版. 文一総合出版 : 408pp.
10. 新海栄一 (1969) 東京都産真正蜘蛛類. 東亜蜘蛛学会 : 65pp + 10pls.
11. Kamura, T. (2006) Spiders of the genus *Haplodrassus* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. Acta aArachnologica, 55: 95-103.
12. Komatsu, T. (2016) Diet and predatory behavior of the Asian ant-eating spider, *Asceua* (formerly *Doosia*) *japonica* (Araneae: Zodariidae). SpringerPlus, 5: 577.
13. Ono, H. (2007) Eight new spiders of the families Hahniidae, Theridiidae, Linyphiidae and Anapidae (Arachnida, Araneae) from Japan. Bulletin of the National Science Museum, Tokyo. (A), 33: 153-174.

写真提供者一覧 (クモ類)

小野展嗣、新海栄一、鈴木佑弥、谷川明男、初芝伸吾